

2016

今年を振り返る

今年もいろいろな事がありました。西東京市図書館では、2016 年を振り返る全館統一展示を 11 月 1 日～12 月 28 日の間、開催します。みなさまの 2016 年はどんな年でしたか？今年の出来事を図書館の本とともに振り返ってみませんか。

オリンピック

ブラジルのリオデジャネイロで開催された「第 31 回オリンピック競技大会」。レスリングや柔道、体操など様々な競技で、史上最多 41 個のメダルを獲得しました。オリンピックやスポーツの本に触れ、あの感動をふりかえり、2020 年東京オリンピックを考えてみませんか。

- ・『オリンピック裏話—あなたもこれで五輪雑学博士—』
(伊藤公／ぎょうせい／2013.12／780.6)
- ・『スポーツを 10 倍楽しむ統計学—データで一変するスポーツ観戦—』
(鳥越規央／化学同人／2015.5／780)
- ・『パラリンピックがくれた贈り物』
(佐々木華子／メディアファクトリー／2004.9／780.6)

自然災害

2016 年 4 月 14 日以降、熊本を中心に九州を襲った大地震。今年は地震以外にも、台風や大雨、火山活動など自然の猛威を感じる一年になりました。

- ・『歴史を変えた火山噴火—自然災害の環境史—』
(石弘之／刀水書房／2012.1／453.8)
- ・『台風学入門—最新データによる傾向と対策—』
(村山貢司／山と溪谷社／2006.7／451.5)
- ・『避難の科学—気象災害から命を守る—』
(古川武彦／東京堂出版／2015.1／451.9)

伊藤 若冲

江戸の中・後期に活躍した画家、伊藤若冲。その独創的な世界観はまさに「奇想の画家」。今年は若冲生誕 300 年の年です。美しい色彩と綿密な描写をお楽しみください。

- ・『異能の画家伊藤若冲』
(狩野博幸ほか／新潮社／2008.1／721.4)
- ・『若冲』
(辻惟雄／講談社／2015.1／721.4)
- ・『水墨画の巨匠 第 9 巻 若冲』
(講談社／1994.11／721)

マイナンバー

国民一人ひとりが持つ 12 桁の番号「マイナンバー」。今年の 1 月から利用が始まりましたが、みなさまお手続きはお済みですか？いったいどんな制度なんだろう、どういう場面で必要になるんだろう、仕事の手続きはどう変わるんだろう…。様々な疑問にお答えするための本をご準備しています。

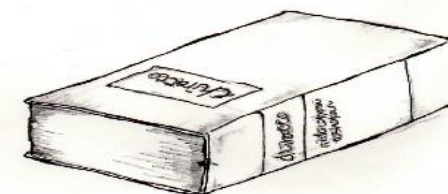
- ・『最新マイナンバー対策がよ〜くわかる本—ポケット図解—』
(曾我浩、天道猛／秀和システム／2015.8／317.6)
- ・『図解でわかるマイナンバー制度いちばん最初に読む本』
(山田芳子／アニモ出版／2015.7／317.6)
- ・『やさしいマイナンバー法入門』
(水町雅子／商事法務／2016.4／317.6)

2016 年 11・12 月号

図書館情報紙



Chiratto
Vol.3



特集1：
統一展示のお知らせ
今年を振り返る
2016

特集2：文化講演会
『今 必要な
しなやかに生きる力』
を開催しました！

目次

連載：
眠れる森の美本

FM西東京で
紹介した本

『今 必要な しなやかに生きる力』を開催しました！



9月17日土曜日、田無公民館にて、文化講演会『今 必要な しなやかに生きる力』を開催しました。

講師は、西東京市内の NPO 法人「ALD の未来を考える会」理事長の本間りえさん。
ご子息の ALD 発症後、ご自身の介護経験をもとに NPO 法人を設立され、現在さまざまな企業や大学、医療関係施設などで精力的に講演を行っていらっしゃいます。

この講演では、ご自身の介護生活から得た生きるためのヒントや、患者や介護者としていかに医療関係者とうまく関係をつくるかなど、まさに「しなやかに」生きるためのお話をしていただきました。

介護や病気など、決して誰もがひとごとにはできないテーマを掲げた講演だったためか、参加者の方々が細かくメモをとったり、大きく頷きながらお話を聞く様子などが伺えました。

約1時間の講演の後、参加者を4グループに分けて行われたグループトークでは、皆さんが積極的にさまざまな意見を交わしたり、名刺交換をする場面もありました。

図書館の講演会が、今後もこうして人と人のご縁を繋ぐ場となれば、とてもうれしくおもいます。

※中央図書館では、今後、健康や医療に関する情報を集めたコーナーを設置する予定です。

第3回

眠れる森の美本

『相沢等詩集(日本現代詩文庫 98)』
(相沢等／著 土曜美術社出版販売
1995.2 中央)

相沢等は明治39(1906)年生まれ、平成12年(2000)年に没した大正・昭和時代の詩人です。図書館にはこの1冊しかありませんが、主な作品が纏められているようです。
詩集『築地魚河岸』では、築地市場の風景や働くひとたちを、独特の言葉選びと切り切りの表現で、勢い良く描写しています。「曳くんじゃない、押してみても、押しても方向を見極めるカルコの車のなりふりは、敬語抜き無礼講を走らせる。」(詩集『築地魚河岸』より)失われゆく東京の風景をひとつ、切り取って残しています。

図書館からのお知らせ

★利用者参加型企画展示募集中！★

図書館で「心に残る1冊」を展示しませんか？

書棚に並んでいる中から、好きな本を選んでおすすめの理由とともに図書館に展示します。本への思いをみんなで共有しましょう。詳しくは、図書館カウンターまたはホームページをご覧ください。

F M西東京で紹介した本

『築地の記憶－人より魚がエライまち－』

富岡一成／著 旬報社 2016.5 刊

★15年間築地市場に勤務した著者が、残しておきたい築地の記憶を写真と共に綴ります。卸売市場のしくみ、マグロのセリ、市場の人々の休日など、様々なエピソードが紹介され、市場を撮影してきた写真家が働く人々の姿を生き生きと映し出しています。築地市場の概要と年表付きです。★

『箸はすごい』

エドワード・ワン／著 柏書房 2016.6 刊

★15億人が日々使っている箸は、なぜ生まれ、料理にどう影響したのか。箸と匙、ナイフとフォークの違いは？日本に箸を伝えたのは小野妹子…など興味深い見出しや、最近の使い捨て箸や自分箸の動向についても記され、箸の全てを知ることができます。★

発行：西東京市図書館

<http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>